

# 地域再生計画

## 1 地域再生計画の名称

雲南市ふるさと通貨交流計画

## 2 地域再生計画の作成主体の名称

島根県雲南市

## 3 地域再生計画の区域

雲南市の全域

## 4 地域再生計画の目標

本市は、平成16年11月に大東町、加茂町、木次町、三刀屋町、吉田村、掛合町の6町村が合併し誕生した。これまで各町村においては、道路網の整備、農業基盤整備、保健・福祉施設整備・情報通信網の生活関連基盤などの整備を積極的に行ってきた。

しかしながら、若年層を中心とする人口の流出に伴う少子高齢化の進行や、基幹産業である農林業においても、担い手の不足や農用地の遊休化・耕作放棄地の増大、更には三位一体改革による国、県からの交付税や補助金の削減など今後の市政運営を行ううえでさまざまな課題に直面している。

そうした中、大都市圏においては、農山村の豊かな自然、美しい景観、伝統文化や歴史、食の安全性などへの人々の関心が大きく高まってきている。

本市は、ヤマタノオロチの伝説で知られる斐伊川が流れ、各地に神話や伝説が残り、全国最多の銅鐸が出土した加茂岩倉遺跡や日本に現存する唯一の永代たたら遺構である「菅谷たたら」などの多くの遺跡や古墳が発掘されており、さらに温泉、公園、ゴルフ場、道の駅等の観光・レクリエーション施設が多数整備されている。また、本市の基幹産業である農業においては、木次町、吉田町を中心に有機農業への先進的な取り組みが行われ、安心・安全な農産物の生産地としての評価を得ている。市内では、米や畜産、ぶどう、茶、葉ねぎ、ほうれん草、花き栽培など、良質な農産物の生産、乳製品やワイン、味噌、餅などの豊富な加工品が生産されており、JA雲南を通じた出荷に加えて、大東町の産直市、吉田町の(株)ふるさと村の契約栽培、木次町や掛合町の道の駅での販売など独自の販路も確保されている。

合併に伴い、これから新市のまちづくりを推進していくうえで、これら地域資源の有効活用を図っていくことは、地域経済の活性化には必要不可欠である。

そこで、「東京」「近畿」「広島」の3都市部にある旧町村出身者で組織された、ふるさと会（会員数3,200名）と連携し、住基カード及び携帯電話を活用した地域通貨システムを導入し、特産品販売の拡大や地域イベントへの参加、福祉サービスや各種公共施設等の利用促進を図り、市民にも同様のサービスを提供することで都市と地域の住民による交流活動を推進する。さらに、中山間地域ならではの豊かな自然環境や地域特有の歴史、文化などの地域資源を活かした、各地域ごとのオンリーワンプロジェクト事業の実施や奥出雲薔薇園の整備等を通じて、福祉サービスの充実や産業の振興、生涯学習の推進、観光客の誘致等を行い、特色のある個性豊かなまちづくりを推進し、地域通貨システムとの連携した取り組みにより、交流人口の拡大や雇用の場の確保を図り、地域経済の活性化につなげていく。

（目標1）会員登録者数 1,380人

（内訳）住基カード

○特産品販売所、生産者、公共施設 50人

○雲南市民 300人

○その他（サポート等） 30人

携帯電話

○ふるさと会員等都市住民 1,000人

（目標2）年間観光客 760千人

（参考）平成15年 747千人（島根県観光動態調査より）

（目標年次）平成22年3月

## 5 目標を達成するために行う事業

### 5-1 全体の概要

本市は、合併により広大な面積を有するとともに豊富な地域資源を持つこととなった。これまでそれら地域資源の活用については、旧町村ごとに事業の実施がされてきたが、横断的な連携による活用は図られず、観光客の誘致など単発的な要素も多く、交流人口の拡大に結びつけることができなかった。

また、都市住民と地域住民の人的な交流により、地域経済の活性化を図っていくため、旧町村ごとに設置されたふるさと会については、合併により組織規模の拡大となり、これから組織体制などの見直しを行うとともに、ふるさと会との連携をより強固なものとし、都市住民との交流人口の拡大を図っていく。

そこで、本市とふるさと会、市民が一体となって、相互にメリットがあり、市内の生産、消費の拡大に大変有効な手段である、住基カード及び携帯電話を利用した地域通貨を市内で展開していく。

さらに、団塊の世代が多いふるさと会員や農山村の豊かな自然環境に憧れている都市住民が本市を訪れ、地域住民との交流を図っていくなかで、最終的に

は、本市に定住していただくよう、新市建設計画に上がっている各種施策を展開することで、魅力あるまちづくりを推進していく。

## 5 - 2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

## 5 - 3 その他の事業

本市の農山村の豊かな自然、美しい景観、伝統文化や歴史、食の安全などの地域資源を活かし、地域の再生を図っていくため、国の支援措置である「地域通貨のモデルシステムの導入支援」を活用した、住基カード及び携帯電話を使った地域通貨システムを市内で展開する。この地域通貨システムにおいては、大都市圏域から、インターネットを利用した本市の特産品の購入やアンケート調査の回答、本市のPR活動を行えばポイントを取得する。さらに、本市を訪れた際にも宿泊施設、キャンプ場、温泉施設、娯楽施設の利用、「ほたる鑑賞」「さくら祭」等のイベントへの参加により、併せてポイントを取得でき、ポイントが貯まれば、会員登録者が本市を訪れた際や本市在住の親族も含めて福祉サービスの提供や各種施設利用、特産品購入等にポイントを使っていただくことで、交流促進を図っていく。

さらに、市民にも同様なサービスを提供し、地域経済の活性化を図っていく。

(別添資料「地域通貨モデルシステム」)

また、計画の目標達成のため、関連事業として次の事業を実施する。

### 関連事業の内容

#### ふるさと会との連携強化

本市出身者で組織されている「東京」、「近畿」、「広島」の各ふるさと会の組織の見直しや雲南市発展のために何ができるか、お互いの役割を明確にし、更なる連携の強化を図る。

また、団塊世代が増えている会員に対し、故郷に帰って住んでいただくよう定住促進の観点から、定住相談員の設置や住宅団地の整備を行う。

#### 新たな産業の創出

新たな産業として、本年5月に奥出雲薔薇園が開園予定である。

本年は栽培面積約1haが開園予定であるが、将来的には更なる面積の拡大を計画しており、更なる雇用の確保、観光客の誘致を行う。

#### オンリーワンプロジェクトの推進

新市建設計画に盛り込まれている、本市の豊かな地域資源を活用した、旧町村ごとのオンリーワンプロジェクトを本年度より実施し、交流人口の拡大と観光客の誘致を図る。

オンリーワンプロジェクトの事業内容

大東地域～悠々タウン大東 市民が憩う健康増進の場づくりと医療の充実

公立雲南総合病院への交通利便性の向上

JR出雲大東駅周辺の交通・交流拠点の整備

市民が憩う健康増進の場づくり

「道の駅」温浴施設の整備

加茂地域～遊学の郷・加茂 歴史と文化による遊学の郷づくり

歴史・文化による遊学の郷の拠点づくり

(仮称)遊学の丘公園の整備

生涯学習の充実による人づくり

文化・芸術活動等、生涯学習の推進

木次地域～さくら咲く健康の町 日本一のさくらのまちづくりと健康農業の推進

日本一のさくらのまちづくりの新市展開

日本一のさくらのまちづくり事業の推進

中山間地域の健康農業の推進

有機農産物の生産と地産地消の推進

三刀屋地域～神話に薫る花の街 インターチェンジ周辺のにぎわいの場づくり

インターチェンジ周辺整備による商業の振興

三刀屋木次インターチェンジ周辺の商業の振興

にぎわい交流拠点の創出

ニュータウンの整備によるにぎわいづくり

吉田地域～鉄の歴史村 文化遺産の保存と街並み整備

文化遺産の保存など鉄の歴史村の継承

菅谷たたら山内と重要伝統的建造物群の保存

街並み整備や交流産業の開発

鉄山師の街並み整備と交流施設の整備

掛合地域～ひと生きていのち輝くまち 新しいふるさと創生とコミュニティづくり

農村のコミュニティ活動拠点づくり

農村文化コミュニティセンターの整備

農村文化の継承による新しいふるさと創生

農村文化ふるさと創生館としての機能充実

## 6 計画期間

認定の日から平成22年3月末まで

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

計画終了後に、4に示す数値目標に照らし状況を調査、評価し、公表する。  
また、事業の運営や内容の見直しを図るため、(仮称)雲南市地域通貨運営協議会を設立し、施設の整備状況、会社の運営状況等について評価・検討を行う。

## 8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし